機密性１情報

署長等が語る

令和４年２月
森林技術・支援センター所長　髙梨　勝昭

はじめに

森林技術・支援センターの開発課題概要等については、前所長が平成30年3月号の「森林管理署長等が語る！」で寄稿していることから、今回は当センターが所在する笠間市の史跡名勝や観光名所をご紹介いたします。

〇笠間市の歴史

明治4年7月の廃藩置県で、笠間藩は笠間県、宍戸藩は宍戸県となり、同年11月には両県とも茨城県へ統合されました。明治11年には旧笠間城下を形成した上市毛村が笠間町と改称、明治22年には市町制の施行により、石井・下市毛・日草場の3村が笠間町に加わったほか、宍戸町・岩間村・北川根村・大原村・鯉淵村などが新たに誕生しました。

その後、ＪＲ水戸線開通に伴う宍戸駅の設置（明治22年）、常磐線友部駅の設置（明治29年）、などを経て、大正12年の郡制廃止に伴い、岩間町が誕生しました。

昭和30年1月、宍戸町、大原村、北川根村及び鯉淵村の一部が合併し、友部町が誕生しました。以後、旧笠間市・旧友部町・旧岩間町は発展を遂げ、平成18年3月19日に合併し笠間市となり、現在に至っています。

〇笠間焼

江戸時代の安永年間（1772～1780年）、箱田村の名主・久野半右衛門が、信楽からやってきた陶工・長右衛門の指導で窯を築き、製陶を始めたのがきっかけと言われています。やがて、東京が近いことから大量生産の時代へ。現在は、250を超す作家が全国から笠間に移り住み、食器類からオブジェまで、個性豊かな作品を生み出しています。平成4年に国指定伝統工芸品の指定を受け、令和２年には、焼き物文化を軸に笠間市と栃木県益子町が共同申請したストーリー「かさましこ“兄弟産地が紡ぐ焼き物語”」が文化庁の日本遺産に認定されています。

笠間の陶炎祭（ひまつり）は、笠間芸術の森公園内のイベント広場でゴールデンウィーク中に開催され、約200名もの笠間の窯元・陶芸家が集まります。個性的な店を自分たちで作り、伝統的工芸品や作家の個性的な作品などを展示販売する、笠間焼最大の陶器市です。一昨年はコロナ禍の影響で中止となりましたが、昨年は新型コロナウイルス感染症対策として、入場ゲートを設けての来場者数の把握、検温、マスク、手指の消毒、いばらきアマビエちゃん登録などの感染対策を講じ 2 年ぶりに開催されました。

〇笠間稲荷神社

御祭神は宇迦之御魂神（うかのみたまのかみ)。生命の根源を司る「いのち」の根の神で、農業、工業、商業、水産業などあらゆる殖産興業の守護神として人々の生活すべてに御神徳を授けて下さる神さまです。日本三大稲荷の一つとして、全国から多くの参拝客が訪れます。

笠間稲荷の菊まつりは日本で最も古い菊の祭典です。明治41年に先々代宮司の塙嘉一郎が、日露戦争によって荒廃した人々の心をなごめようと、神社に農園部を開園して始めたものです。10月中旬から11月下旬まで笠間稲荷神社を中心に開催され、約１万鉢の菊花や菊人形の展示、神事流鏑馬など催しがたくさんあります。

また、「上を向いて歩こう涙がこぼれないように」の坂本九さんは、幼少期、笠間市に疎開し、笠間稲荷神社で結婚式を挙げるなど、県民にもなじみ深い存在となっています。

おまけ！

笠間といえば笠間稲荷神社、稲荷神社といえばキツネ、キツネといえば油揚げ、油揚げといえば「いなり寿司」！「笠間いなり寿司」の特徴は、そば・くるみ・舞茸など様々な素材を使った”変り種いなり寿司”という点です。

笠間稲荷神社参拝後は、是非食べてみてください。
美味い！（鬼滅の刃 炎柱 煉獄杏寿郎風に）

機密性１情報

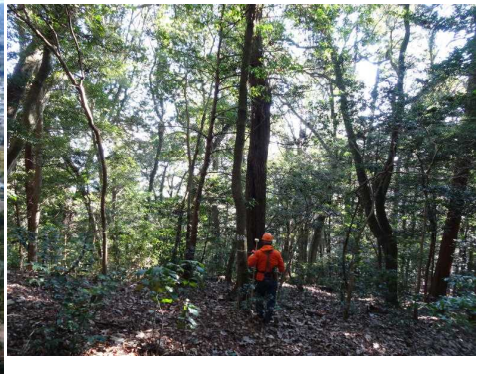
〇佐白山

笠間盆地の中央にそびえる佐白山は、笠間城があったので「お城山」とも呼ばれています。笠間城は、江戸時代全国でも数少ない山城の一つです。近世の初め、笠間城主であった蒲生郷成が、出身地の近江国（滋賀県）の石材技術をもつ石工らを用い、近世笠間城の骨格を形成しました。最も顕著な遺構は、山頂一帯の天守曲輪の石垣や石段で、山中の露出する岩石を割り、急斜面の山腹から運び出して築き上げたものです。なお、笠間城跡は公園となっており、春には桜、夏は緑に包まれ、秋には紅葉と、一年中自然を満喫できます。

当センターから見た佐白山（1月撮影）

笠間城跡にある佐志能神社を囲むように国有林があり、100 年生以上の高齢級林分が多くあります。この一角に当センターが設定した試験地があり、長伐期施業と高齢級の林分構造の違いなど、今後の人工林施業の参考とすることを目的とした調査を行っています。

試験地上空から笠間市を望む


試験地の調査

〇楞厳寺(りょうごんじ)

楞厳寺は、山号どおり県境の仏頂山の麓にあります。笠間市石井から県道一号線で片庭から城里町徳蔵(とくら)へ通じる道の先をすぐ左折し、坂道を登り、仏頂山に向って右折して降りると、山門が見えます。ここが楞厳寺です。切妻造りの茅屋ぶきで重量感あふれる室町時代中期の簡素な山門です。国指定重要文化財で、市内の山門では最古のものです。

室町時代中期の山門

楞厳寺境内には、笠間氏累代の墓地があり、歴史を感じる苔が生えた墓碑が複数あります。中世領主の墓域として貴重なことから、昭和53年に笠間市指定史跡に指定されています。

寺は、山すその石段を登った平坦な地にあります。奥の院とよばれた観音堂が正面にあり、笠間時朝の寄進仏である千手観音立像があります。何度かの火災にも残った建造物で、長い間仮本堂でもあった貴重なお堂です。

参拝の石段と楞厳寺

国指定重要文化財である千手観音立像は、同時代の不動明王、毘沙門天とともに収蔵庫に納められています。

また、楞厳寺の裏手の森林は国有林となっており、林齢151年生のスギと林齢296年生のヒノキの高齢級人工林の試験地があります。この試験地も佐白山にある試験地と同じ目的で調査をしています。試験地の調査に赴くには楞厳寺の石段と境内を移動します。

機密性１情報

〇国指定天然記念物［片庭ヒメハルゼミ発生地］

ヒメハルゼミは、笠間市片庭の楞厳寺と八幡神社境内に生息しています。地元の人はオオセミと呼んでいますが、体は小さくやさしい印象です。雄は体長24mm、雌は細長い産卵管があって27mm位です。沖縄・奄美大島・九州・四国・本州に分布し、当地は太平洋側の分布北限となります。弘法大師と徳蔵姫の伝説をもつセミとして愛護してきた経緯から、国の天然記念物に指定されています。6月下旬から7月下旬まで発生し、鳴き声は聞こえるが、鳴いている姿はほとんど見ることができません。カシ、シイ等の暖地性の常緑樹林に生息し、一匹が鳴き出すと一斉に合唱するという珍しい習性をもっています。なお、国有林の一部も生息地となっています。

おわりに

笠間市内には、上記で紹介した楞厳寺山門、千手観音立像、片庭ヒメハルゼミ発生地のほかにも、国指定文化財として笠間稲荷神社本殿、塙家住宅、薬師如来坐像、薬師如来立像、弥勒仏立像、国登録有形文化財の笠間市立歴史民俗資料館、県指定文化財の笠間城櫓ほか多数の文化財があります。笠間市の歴史を是非一度散策してみてください。なお、散策に便利な「笠間文化財マップ」は笠間市のホームページに掲載されています。また、観光に便利な「観光周遊バスルートマップ」もあります。

当センターの各試験地は、視察や研修のフィールドとしてご活用いただけますのでご連絡いただければ幸いです。

（森林技術・支援センターURL:http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/gizyutu/index.html）